



効率アップの基礎知識 包装機器の選び方

vol. 包装作業の種類と内容について 06 (包みピロー包装編)

■包み（ピロー包装機）

個体物の製品を包装材料（フィルム）で覆う包装形態を言います。包装材料としては、紙、プラスチックフィルム、アルミ箔などラミネートフィルムが多く使われています。従来、オーバーラップの折りたたみ方式やキャンディーのひねり包装（ツイスト包装）などが一般的でしたが、これらは密封性に欠けるため、完全密封の要望にも対応できる「横ピロー包装機」が現在では主流となっています。

横型ピロー包装機は本来「充填」の作業に分類されますが、ここでは「包む」という点で説明いたします。

工程として、被包装物を包装機に搬送する過程で、包装フィルムを筒状に成形しながら包装し、両端をシールした後カットします。連続的にシールカットして包装するため機械にも被包装物にも負担が少なく、比較的シンプルな構造となります。また、兼用性と汎用性にも優れており、多彩なフィルムに適應できることから食品はもちろん医療品や工業製品まで幅広く使用されております。

被包装物を下側から巻き込みながら包装する「逆ピロー包装機」は素麺などの棒状の製品を複数包装する場合や、割れやすい製品の包装に使われています。但し表裏のある製品には不向きです。

この他にも、製品にフィルムを巻き付けてとめるだけの「スリーブ包装」や、環状物（リング状）のものを包装する「スパイラル包装」などがあります。

【ひとくちメモ】

ピロー包装の語源はその形態が「枕（ピロー）」に似ていることから名付けられましたが、海外ではあまり使われておりませんのでご注意ください。

